vol.54-12（通算 621 号）　2025 年 3 月号

やどかり

2025 年 3 月 15 日発行
（毎月 1 回 15 日発行）
1987 年 12 月 19 日第三種郵便物認可
発行人　公益社団法人やどかりの里
代表者　増田　一世
〒 337-0043 さいたま市見沼区中川 562
TEL　048 - 686 - 0494
FAX　048 - 747 - 7030
URL　https://www.yadokarinosato.org/
定価　50 円（含会費）

やどかりの里総括会議報告

55 周年に向け人権を中心に据えた活動ビジョンを描く

２月８日，やどかりの里の１年を振り返り，来年度以降に向けた見通しを立てることを目的とした総括会議が開催された．メンバー・家族・職員併せて 51 人が集った．

2024 年度のテーマは「やどかりの里の価値を発信し，未来を展望する」とし，５つの活動方針を掲げ取り組んできた．総括会議では，冒頭で社会情勢の共有を行い，その後，活動方針に沿って各取り組みの報告を行った．報告の合間にはグループワークを挟み，活動にを振り返りながら意見を交わした．ここではその中から主要なトピックスを報告する．

私たちを取り巻く情勢

まず，日本の人権基準について問い直す事件や裁判について共有した．宇都宮病院事件から 40 年が経過しても，精神科病院における虐待や暴行などは依然として続いている．精神医療国家賠償請求訴訟，優生保護法被害裁判，生活保護引下げ違憲訴訟などに対し，やどかりの里も傍聴や署名活動を通じて取り組んできた．また，障害者総合支援法の規制緩和が障害福祉の市場化を促進した結果，成果主義の加速や専門性の低下を招いている現状についても共有された．運営会社の不正問題や虐待事案など，障害のある人の人権が軽視される地域の実態が浮き彫りとなっている．

2024 年度の活動を振り返る

精神科病院からの地域移行の取り組みでは，ピアサポーターと職員が協働し，精神科病院への訪問調査の実施が報告された．COVID-19 の影響もあり，退院に向けた取り組みが停滞している実態が明らかになった．入院患者や家族の高齢化，内科疾患の重複などが，地域移行を困難にする要因となっている．今後は，ピアサポーターの実践の意義を活かし，精神科病院への定期訪問を通じた連携の再構築を目指す方向性も示された．

また，「未来を拓く　つなぐ･つくるプロジェクト」では，活動拠点として２年目を迎えた「エシカル Café としょかんのとなり」や，キッチンカーとともにイベントへ参加し，地域を巡回する取り組みが紹介された．

そして，2024 年度より始動した広報委員会では，まだ支援につながっていない障害のある人や，やどかりの里の応援者の拡充を目指し，ホームページなどの広報ツールの刷新を進めていることが共有された．

2025 年度，55 周年を迎えるやどかりの里は，改めて原点に立ち戻り，未来を展望するため，2024 年度に実施した職員の状態調査に続き，メンバー・家族の暮らしの実態や思いを把握するための調査を行う予定である．総括会議で語られた「本人が生きていて良かったと思える人生にしてもらいたい」という家族の声は，人権を中心に据えた活動の重要性を示唆している．やどかりの里は，これからも実践の確かさを発信し，支援につながっていない人も視野に入れた活動ビジョンを描き出すことを確認した総括会議となった．（渡邉　奏子）